

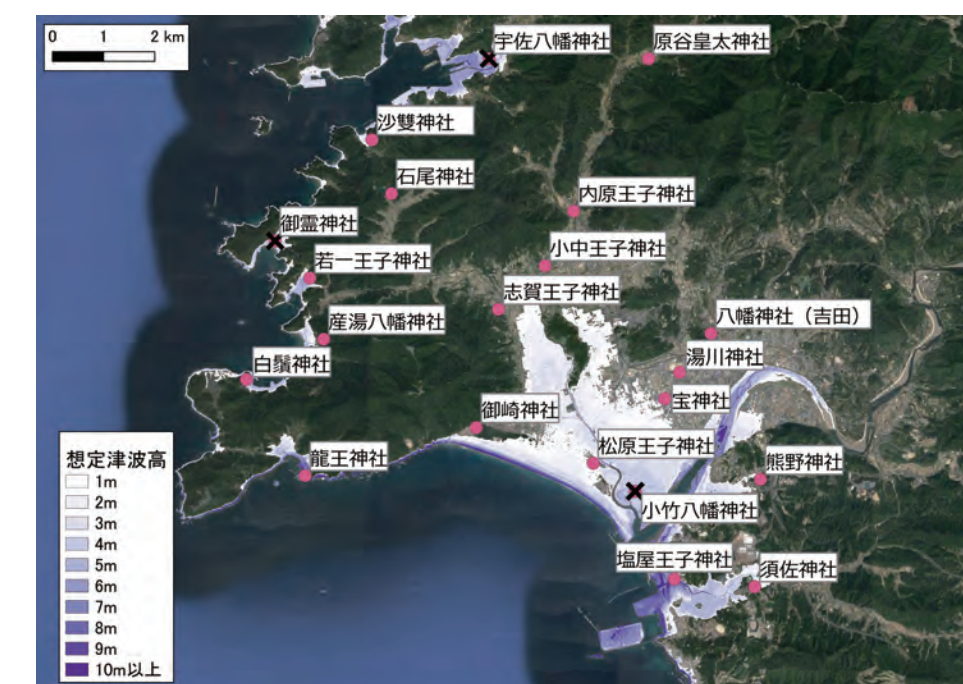
神社を防災コミュニティの拠点にする ～和歌山市・伊達神社の無病息災マップ～



自然・環境マネジメント研究部 環境計画研究グループ 高田 知紀

■神社の立地安全性

数百年から数千年の単位で存在している神社は、その間に発生した様々な災害リスクを経験しています。その結果、現在に残存する多くの神社が、津波や洪水などの災害に対して安全な場所に鎮座しています。実際に、和歌山県内の神社について、南海トラフ巨大地震による津波のリスクを検証すると、実にその90%は被害を受けないというシミュレーションの結果になりました。



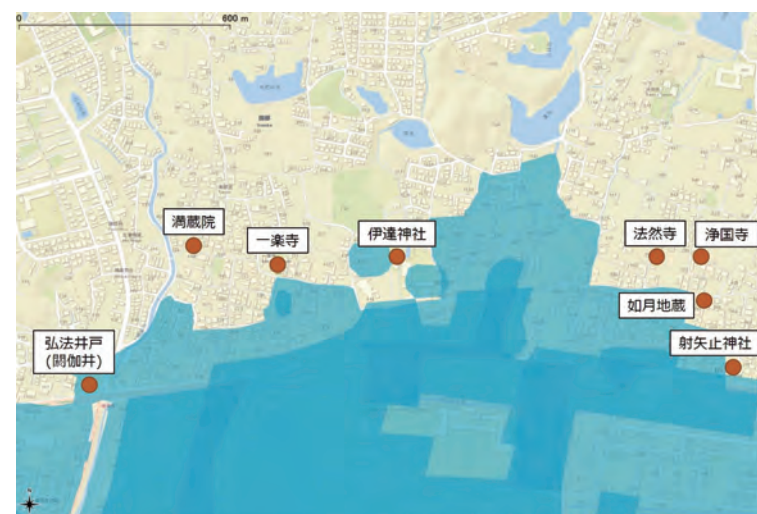
和歌山県御坊市の津波災害リスクと神社

■和歌山市・伊達神社における防災コミュニティの形成

神社の立地の安全性をふまえ、和歌山市の伊達(いたて)神社において、神社を地域防災の拠点として活用する社会実験を展開しています。宮司、氏子総代、地域住民、専門家が連携しながら、災害リスクを把握すると同時に、地域の魅力や価値も発掘し、それらの情報を「絵地図」として取りまとめました。「無病息災マップ」と名づけられたこの絵地図は、夏越の大祓など無病息災を祈願する祭事で活用されます。今後は、全国の様々な神社においても、防災コミュニティとしての活用可能性を検討していきます。



伊達神社の境内



伊達神社周辺の浸水想定域



フィールドワークのようす



完成した無病息災マップ